

橋本・伊都・那賀租税教育推進協議会会長賞



僕の地元

学校法人利晶学園

初芝橋本高等学校

三年 田村 海斗

私は和歌山県に住んでいます。和歌山県は自然が豊かで、海や山に囲まれたとても住みやすい場所です。家の近くには川が流れていて、夏には家族で川遊びをしたり、秋には紅葉を見に山へ行つたりします。そんな何気ない日常の中にも、「税金」がたくさん使われていることを最近知りました。例えば、よく遊んでいた公園や運動場の整備。遊具が新しくなったり、トイレがきれいに保たれていますのも、税金が使われているからです。

また、道路の舗装や街灯の設置、通学路の見守りなど、安全な生活を支えているのも税金の力です。朝、登校するときにすれ違う地域の見守り隊の人たちも、税金による支援を受けて活動していることを知りました。さらに、和歌山は自然災害が起きやすい地域でもあります。近年では台風や大雨による被害が増えており、私の家の近くの川でも、数年前に氾濫の危険があつたことがありました。その後、川の堤防が高くなり、護岸工事が行われました。これらの工事もすべて税金によつて行われていると知り、安心して暮らせる裏には大きな支えがあることを実感しました。

学校のことも税金でまかなわれています。教室にエアコンがついているのも、中学の頃給食が毎日出るのも、先生たちのお給料も、みんな税金でまかなわれています。特に夏の暑さが厳しい和歌山では、エアコンのおかけで快適に勉強できることはとてもありがたいことだと思います。

和歌山には観光地も多くあります。白浜や高野山、熊野古道などには、県外から多くの人が訪れます。観光地の整備や案内表示、外国人向けのサービスなどにも税金が使われており、地域を盛り上げるためにも役立っています。観光で得られた収入がまた地域のためにも使われていることもありますので、税金は地域の「循環」の役割も果たしています。

税金は「自分とは関係ないもの」と思っていたけれど、実は私たちの生活のあらゆる場所に使われていて、なくてはならない存在です。

将来、私も働くようになつたら税金を納めることになりますが、自分のお金が誰かの役に立つていて、少し誇らしい気持ちになります。これからも、身の回りの出来事に目を向けて、「税金がどう使われているのか」を考える習慣を大切にしたいと思います。